



泉丘SSHだより



第9号 H22. 9.24
 編集: SSH推進室
 発行責任者: 浅田秀雄

石川県立金沢泉丘高等学校

夏休み海外研修その2



韓国サイエンスキャンプ

8月1日～8月15日 韓国ソウル

出発前は、世界中から色々な国の人が集まってくるということで、自分の英語が通じるのか、そんな人たちと友達になれるのか、2週間もほとんど英語しか話せない環境で過ごせるのかと不安だらけでした。韓国に着き、空港からソウル大学までの間、バスから見える風景が日本とは違うけれどもどこか似ている風景に、外国に来たという実感があまり持てませんでした。けれど、オリエンテーションがある会場に集まったとき、そこで韓国語や英語はもちろん、中国語、ドイツ語、ヘブライ語、他さまざまな言語をきいたとき、私は韓国に来てISECに参加しているという実感が湧いてきました。また、そこでは自分のLabのメンバーで集まって自己紹介をした後、交流タイムがあり、韓国人の男の子が話しかけてくれました。彼は日本語を勉強しているらしく、彼が知っている日本語で話しかけてくれ、そのおかげで周りの子たちとも話すことができ、すこし打ち解けることができました。初日は不安が残るもののこれからの2週間はなんとか過ごせそうな自信を持つことができました。



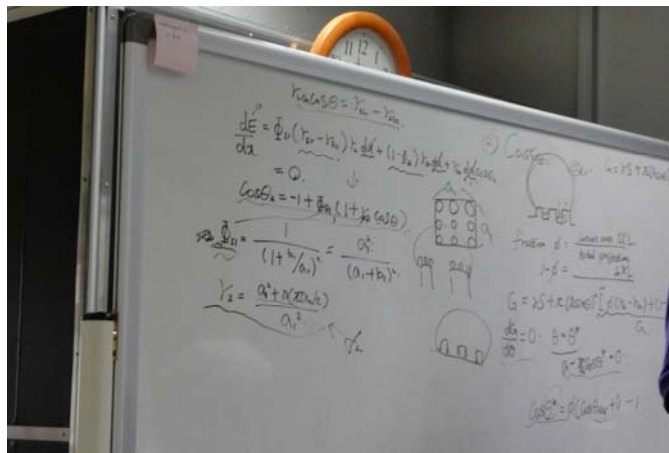
クイズを行う前は皆があまりにも流暢に英語を話し、どんどん話が進んでいくので気が引けてしまいました。クイズの答えを言い出すことができず、もどかしい思いをしたときもありましたが仲良くなるのに言葉はいらないということを実感しました。

インターナショナルナイトでは各国のそれぞれ異なった発表をしていてとても興奮させられるものばかりでした。私たちは日本舞踊と日本のクイズをしました。とても好評で、友達には踊りや着物がとてもきれいだと褒めてもらえ

て嬉しく思いましたし、日本の文化が世界に誇れると自信をもつことができました。

たくさんのすばらしい思い出や世界中のさまざまなバックグラウンドを持つ友達をつくることができ、親友と呼べる友だちさえできました。友達とお互いの国について質問しあい、国の共通点や違いをただの知識としてではなく、実際に話したりすることで、経験として得ることができたのは素晴らしい機会だと思います。今回、このような貴重な体験をして、毎日周りの友達から刺激受けて、考えることはたくさんありました。この経験は誇れるものだと思いますし、ISECで得た友達はもちろん、思い出や知識を一生大事にしていきたいです。(理数科 K)

部活動で銀のナノ粒子を扱っていたという理由で「ナノフュージョンテクノロジー」班で活動を行った。この活動は正直自分には難しく、行ったこと全てを理解することはできなかった。同じグループの参加者でも、半分ほどがあまりよく分かっていない様子だった。そんな自分たちに向けて、指導にあたってくれていた大学生は、この技術（ナノコーティング技術はロータス効果の応用）が誰かの役に立つことを分かってくれば良いと言ってくれた。ラボグループのメンバーは、人の役に立つ技術を日々研究することに喜びを感じているようであった。（普通科 T）



中心的な活動が Lab session だった。参加者は、事前に自分の興味、関心があることを聞かれ、それぞれの異なるラボに行くことになっていた。

1 日目はとても緊張していたので、話し合いにもなかなか参加できなかったが、日が経つにつれて打ち解けることができ、最終日のプレゼンテーションでは、ラボメイト協力して発表を成功させることができた。

実際に自分たちでソーラーパネルを作成する実験を行った。つなぎ方を工夫し、モーターのプロペラが回ったのである。あの時はうれしさのあまり感動してしまった。

ソーラーパネルの仕組みを Lab session で学んだのだが、ほかにも学んだことがある。それは、仲間と協力して問題を解決することだ。実験の結果が思うように得られなかったとき、なぜそのような結果になったのか、と一人で考えても、考えは独断になっていき、客観的にものを考えられなくなってしまう。そんなときこそ、仲間と議論したり、手伝ってもらったりすることが大切なのだ。その結果、自分なりの結論が見えてくる上、新しい考えも浮かんでくるのだと思った。また、Lab session のまとめとして、最終日に、Lab で学んだことをプレゼンテーションで発表する場があった。実際、Lab session で扱っていた内容は僕にとっては少し難しく感じられたし、話されている英語を聞き取り、理解することに一生懸命になっていたのも、あまり積極的でないように思われていたかもしれない。しかし、積極的になろうと思っていたので、「自分もプレゼンに参加させて欲しい」とラボメイトにお願いしてみたところ、彼らは快く受け入れてくれた。僕に与えられた短い部分でさえ、とても上手とは言えない僕の英語の発音だったと思うが、精一杯やったので後悔はしていない。ラボメイトたちも、笑顔で迎えてくれた。このときが 15 日間の滞在の中で一番うれしかった気がする。この経験は、僕の人生の中で貴重なものとなった。そして、これらの実験や研究から、僕の興味の方向が変わったかもしれない。今までは、物質化学に興味を持っていたのだが、電気化学にも興味を持てるようになった。この経験をこれからの高校生活に生かしていけたらいいと思っている。Lab session の間、ご指導くださった先生方、そして、僕の失敗でさえ、あたたかく受け入れてくれたラボメイトの皆、ISEC2010 にぼくを参加させてくださったすべての人に感謝したいと思う。

理科的な活動以外にもカップ作り、韓国の伝統的なカイト、仮面作りスポーツイベントなどがあり、面白く、協力して楽しむことができた。異なる国の人たちと、同じ目的を目指して頑張れたということにも達成感が感じられた。韓国でのこのような経験を通して、自分に自信が持てるようになったと思う。（普通科 K）